

ウ 子どもの遊び場充実方策のモデル的な実施

- ・定期開催している朝霞の森以外の場所において移動プレーパークを実施し、ソフト、ハードの面から課題を抽出、「遊び場ネットワークの創出」をテーマとして遊び場環境の整備手法の検討を行った。

○実施結果

- ・実施回数：18回
- ・参加人数：1,806人（小学生 487人／幼児 734人／大人 585人）

○まとめ

- ・移動プレーパーク実施の各回では1日あたり平均100人という大勢の参加者が訪れ、プレーパークの人気ぶりがうかがえた。
- ・様々な遊び道具の活用頻度も高く、そこから新しい遊びを子供たちが自ら考え出すなど独創性や自発性も発現しており、子供達にとってのニーズが感じ取れた。
- ・本実施によってプレーパークを知った参加者もあり、また、継続的な実施の要望も出されるなど周知効果も高かったことが分かった。

■ 遊び場の再構築

時代のニーズに合わせた遊び場の創出に向けて、作成したカルテをもとに、各公園が持つ**遊び場の特徴**を読み解き、それらの**特徴をより活かした遊び場**となるよう「**多様性**」「**地域性**」「**持続性**」のバランスを考え、各公園を再構築する。

多様性

地域性

持続性

多様性 ～誰でも自由に遊べる遊び場～

遊び場には**様々な利用者が訪れる**。遊びと安らぎが共存できる空間を目指して、公園の再構築を行う。
現代の子供の**変化していく遊び**に対応できる**遊具や道具**、**インクルーシブ公園**や**移動プレーパーク**は遊びの**可能性**や、新たな**発見**、自身の**成長**を促すきっかけを与える。



親子で一緒に遊べる遊び場



どこでも遊べる遊び場
(移動プレーパーク)



誰でも楽しめる遊び場



遊び方を変えられる遊具のある遊び場



どこでも休憩できる遊び場

地域性 ～地域に根付いて遊べる遊び場～

公園などの遊び場は子供の成長に欠かせない場であるとともに、**地域への愛着**を育てる場でもある。
特徴ある遊び場の思い出や、**地域の人々**とのつながりをつくりながら、大人が子供たちを見守ることで次の世代を育て、**愛着のある地域づくり**へと発展する。



地域資源を活かした遊び場



自己表現ができる遊び場



地形や水辺を活かした遊び場



自然と触れ合える遊び場

持続性 ～安心安全に遊べる遊び場～

遊び場を安心して利用し続けることができるように、施設管理や再整備、利用者のつながりを検討する必要がある。再整備により適切な施設を設けることも必要であるが、利用者が地域の方々と協力し、遊び場の管理や環境の手入れなどを行い、**常に遊びやすい状態を維持するなどの仕組みづくり**も重要である。



誰でもトイレのある遊び場



安全な遊具のある遊び場

■ 遊び場を巡るルートづくり

公園は**利用者の求める遊び場へと姿を変え**、「人」と「体験」でつながった**ぼぼネットパーク**が完成する。遊び場を巡るルートは朝霞市内を巡る新たな**まちなかトレイル**として**ウォーカブルな朝霞市のまちづくり**に貢献する。既存の散策路やシェアサイクルなどを組み合わせ、また、公園が不足している地域のレクリエーション機能を補いながらネットワークさせることで、**遊びと健康の輪**を朝霞市全体にひろげる。



■ 4-1 朝霞市にひろがる「ぼぼネットパーク」のイメージ



■ 図4-2 既存の散策路と遊び場を巡る概念図

■ 今後の課題

- ・遊び場の充実方策の検討をにあたっては、今年度移動プレーパークが実施された8公園を代表的に抽出して調査・検討を行った。各公園の再構築を考える際は、本計画で調査・検討を行った公園以外の公園についても、それぞれの公園についての評価を行う必要がある。また、遊び場としては公園だけでなく、児童遊園地や緑地、広場等についても位置付けや関連性を検討していくことが求められる。
- ・屋外の公園で安心して子供たちが遊べるように、周囲の大人が子供の遊びを見守るなど、遊び場に対する地域作りが必要である。
- ・必要に応じて公園利用者とワークショップを行うなど、各公園ごとの利用者ニーズの共有を図る機会を設定し、公園の課題を確認する必要がある。
- ・移動プレーパークを実施していくためには、プレーリーダーやボランティアスタッフなどの運営体制の枠組を構築する必要があるほか、道具の運搬や移動手段として欠かせない車両を確保することが望ましい。
- ・移動プレーパークの実施に際しては、公園周辺の小学校や保育園への周知が重要であるほか、学校の年間予定や時間割等の共有を図るなど、相互に連携を図っていくことが望ましい。

(3) シンボルロードの機能向上構想

ア シンボルロードの回遊コースの設定

- ・シンボルロードの機能向上のための構想として、シンボルロード内及びシンボルロードと周辺エリアが一体となった回遊コースの設定やコース内での花の増殖検討を行った。
- ・回遊コースの計画においては、まちとみどりをひとつつなぐ回遊ネットワークの構築を行うこととした。また、利用者に回遊コースを楽しみながら伝え、案内し、楽しんでもらうためのサインを設定し、ウォーカブルなまちづくりに寄与する計画を策定した。

■シンボルロード満喫コース

シンボルロードの大きな魅力である深い樹林地を体感し、朝霞の貴重な資産である豊かで大らかなみどりを満喫するコース設定とする。



■イメージスケッチ A



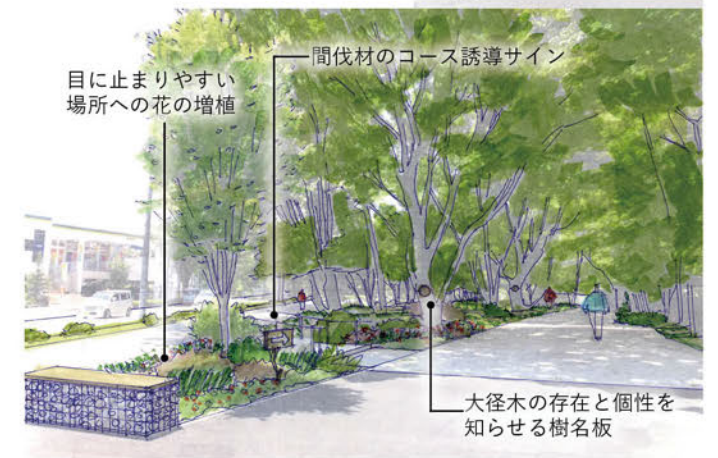
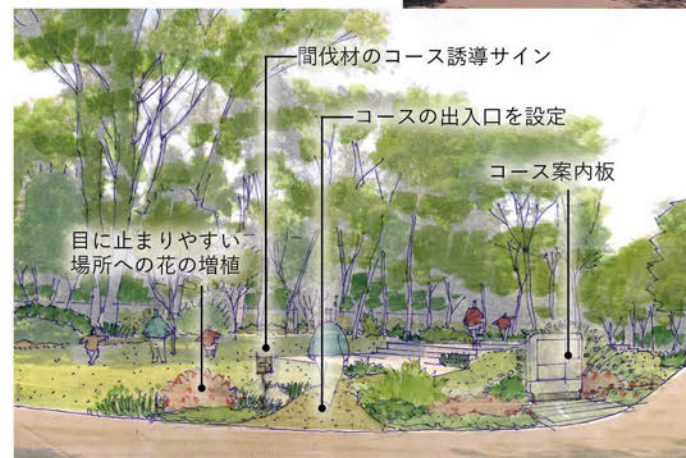
■イメージスケッチ B



■イメージスケッチ C



■イメージスケッチ D



※図版は報告書より抜粋

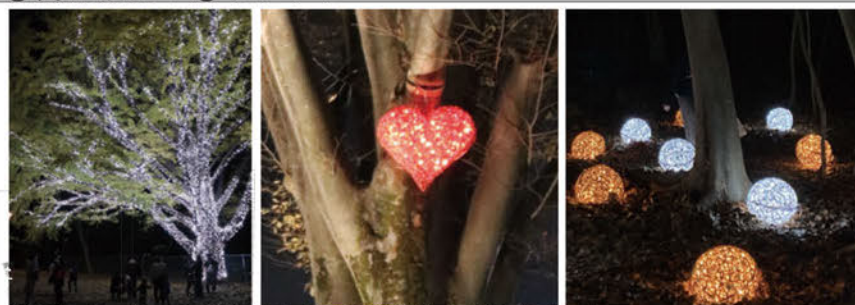
イ イルミネーション照明の計画、事業化のための検討

- ・質の高い景観に寄与する魅力的なイルミネーションの展開を図るため、全体構想から事業化への検討を行った。
- ・イルミネーション事業を展開する上で重要となるシンボルロード内の空間特性（結節点やランドマークとなる既存樹、樹林の密度や広場的な広がりなど）を調査し、それに基づき、事業化に向けた全体構想（照明計画のコンセプトと基本方針）の立案を行った。

■イルミネーション

シンボルロードの長さ・奥行き・立体感を活かすイルミネーション。
既存のシンボリックな樹木を活用し、立体感のある明かりが夜の暗がりに浮かび上がる。
奥へ奥へと次々に現れる光が歩行者を誘い、終点のイチョウが大団円を飾る。

①樹形活用+②ランタン



イルミネーションの終点で大団円を飾る大きなイチョウ。
包み込むような大きく広がる樹形を活かし、
夜の森の中心で特別に彩られた姿を浮かび上がらせる。
ボールの形のランタンの中にハートを混ぜ、眺めていると発見のある飾りつけを行う。

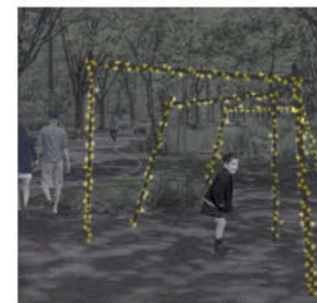


④竹花火 (灯具：振興公社)



シンボルロードの森の温かみを感じさせる、
竹を使った花火のようなオブジェイルミネーション。
開けた芝生の中央広場で近づいて360度から楽しめる明かりの演出を行う。

⑤竹ゲート (灯具：振興公社)



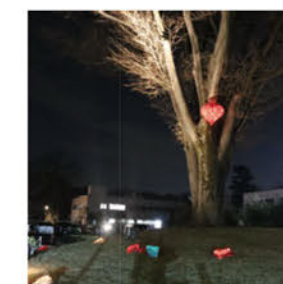
くぐり抜けるイルミネーション。
樹木から樹木へ、竹のゲートが
楽しい歩行を促す。

⑥あさかハート (灯具：朝霞市)



ASAKAのA-S-Kとハートのフォトスポット。
ハートの中心で思いおもいのポーズ
をとって愛を表現する。

③ライトアップ



庁舎前緑地のケヤキをスタートにシンボリックな樹木を
照らす都的な明かり。
たくさんの木々の中で照らされた木は、
舞台のキャストのように姿を浮かび上がらせる。

※図版は報告書より抜粋

イルミネーション実施時の様子

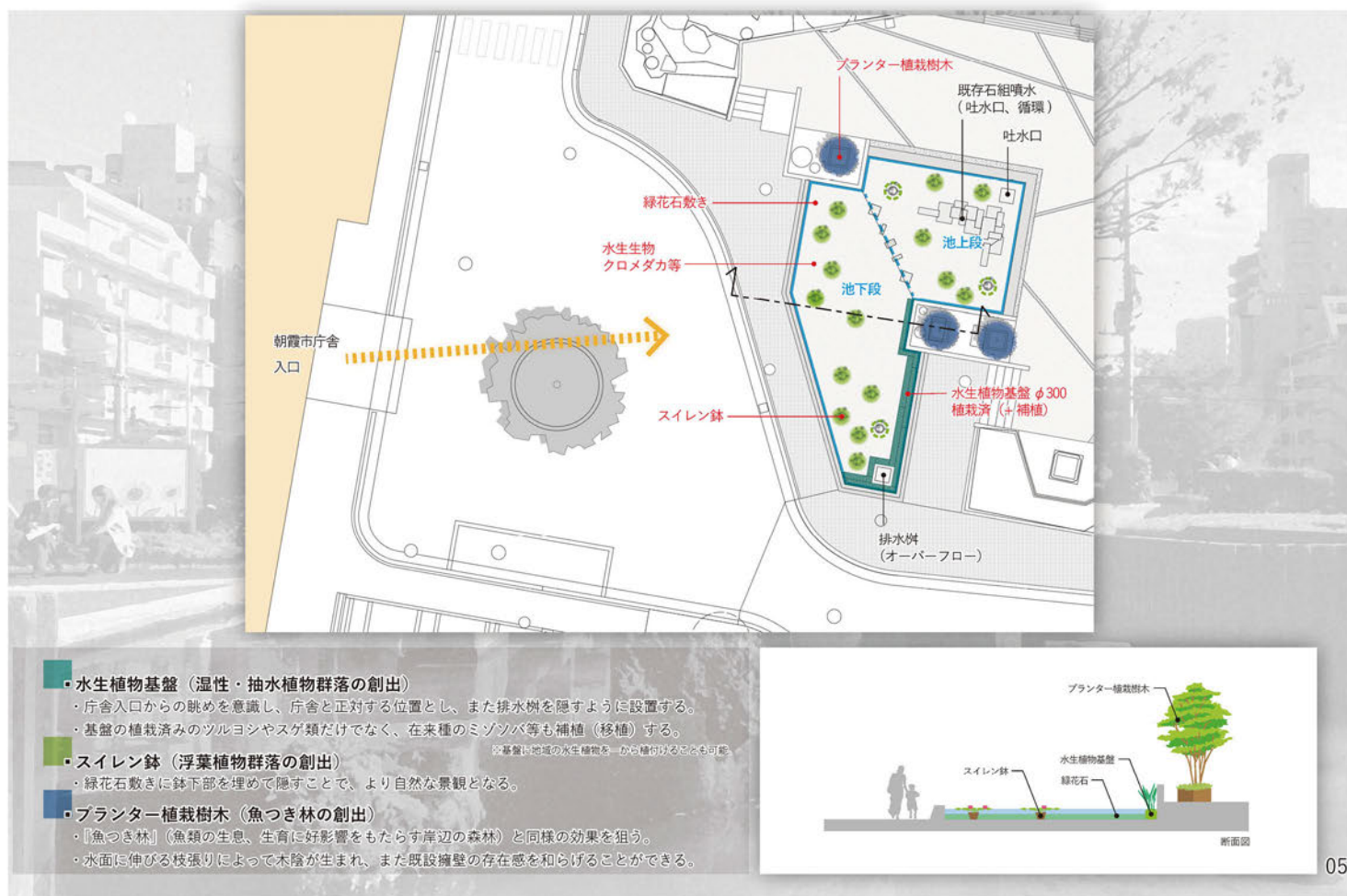


ウ シンボルロード結節点（庁舎前緑地）の緑地機能向上検討

令和元年度の整備を継続し、市庁舎前広場として多くの来訪者を迎えるエントランス機能、魅力の向上と、生物多様性に配慮した空間づくりを行った。水辺の生きものが生育できるように、既存の池を自然型の池に改修すると共に、池周りにベンチを設置し、来訪者が水に親しめる空間を創出した。また、広場にアクセスしやすいようにスロープを新設し、誰もが憩える広場空間となるように検討し、整備の一助とした。

■生物多様性に配慮した水景整備

フォーマルな形態の既存の池に、多様な水生植物や生き物を導入し、自然度の高いナチュラルな親水空間へと転換する。



※図版は報告書より抜粋

エ ホームページでの発信ページのデザイン（シンボルロード整備内容等）

シンボルロードの整備内容、及びシンボルロード周辺における活動やイベントなどをリアルタイムにより見やすく分かりやすく情報発信するため、市の情報発信ツールとなっているホームページ構成や、ビジュアル等の検討を行った。

シンボルロードの歴史

米軍基地跡地時代から現在に至るまでのシンボルロードの整備過程を概略的に説明し、現在の現在のシンボルロードの概要について図版を用いて説明する。また、シンボルロードの歴史や整備に至る経緯を紹介するページ。

- ・米軍基地時代から、現在のシンボルロードが出来るまでの歴史を概略的に説明する。
- ・図版を用いて、範囲や大きさなどの概要的な特徴を明示する。



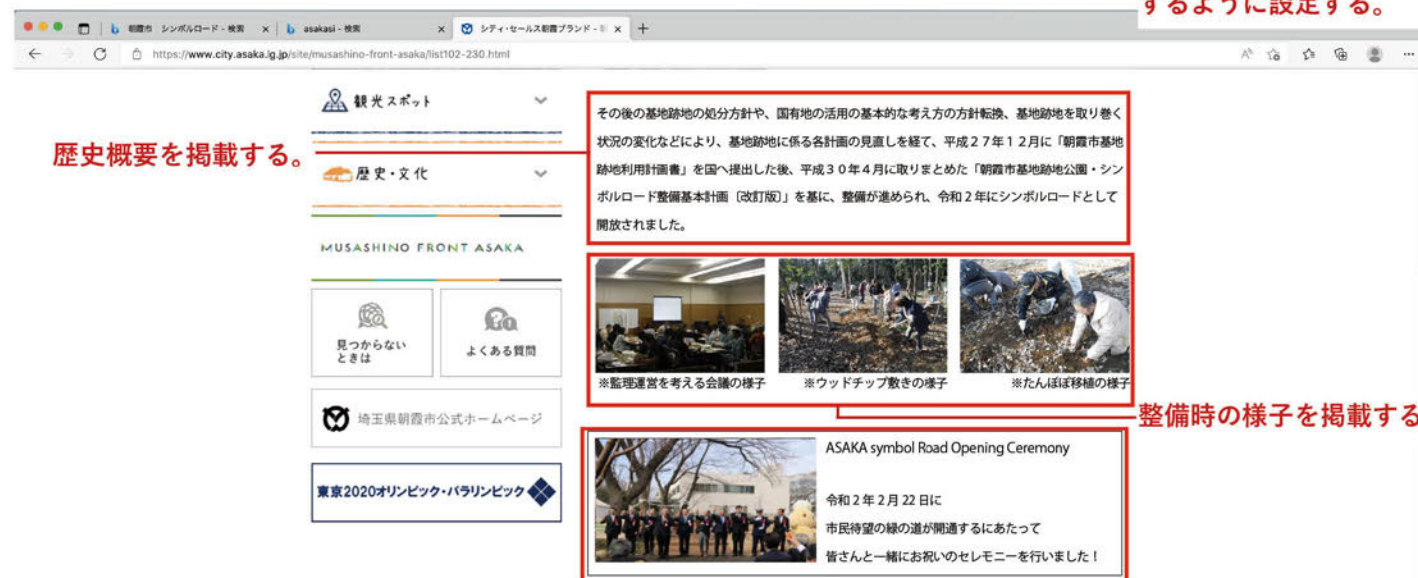
歴史概要を掲載する。

時代の移り変わりを掲載する。

整備基本計画についてのリンクを作成する。

シンボルロードの概要・特徴を示す図を作成する。選択した際に図版が拡大するように設定する。

歴史概要を掲載する。



整備時の様子を掲載する。

オープニングセレモニー時の動画や写真等の記録を掲載する。

このページの
Topへもどる

シンボルロード全体整備

シンボルロード全体の整備概要を整備計画や整備工事が行われた当時の記録を交えて説明するページ。

- ・全体整備について、整備のエッセンスを当時の写真を交えて紹介する。
- ・整備の際に策定された計画書へのリンクを作成する。



整備基本計画へのリンクを作成する。

シンボルロード整備概要に当てはまるエリアのプロット図を作成する。選択した際に図版が拡大するように設定する。

該当する整備当時の写真を掲載する。

整備内容について簡潔に説明する。



※資料内の掲載写真、文章、図版等はサンプルです。

このページの
Topへもどる

※図版は報告書より抜粋

(4) 国道254号バイパス沿道の活性化検討

ア 国道254号バイパス第2期整備の完成に向けて、地域経済の活性化に資する沿道の土地利用等、官民連携の利活用の促進などについて検討を行った。

①沿道の活性化手法の検討

- ・都市計画の手法の活用

国道254号の沿道については、地域の経済を支えるまちづくりを進めるため、都市計画の手法の活用を図り、交通軸に面する立地特性を生かした土地利用の検討を行った。

②沿道公共施設の活用

- ・旧憩いの湯跡地の内間木公園との一体活用や公募設置管理制度（Park-PFI）等の手法の活用を検討し、民間資金等を活用することにより公園利用者の利便性の向上や、公園管理者の財政負担の軽減をはかるなど、公園の価値を高める取組の検討を行った。

※なお、詳細な検討は、内間木公園拡張整備等の検討において行う。

■公募設置管理制度（Park-PFI）等の活用



※国土交通省ホームページより引用